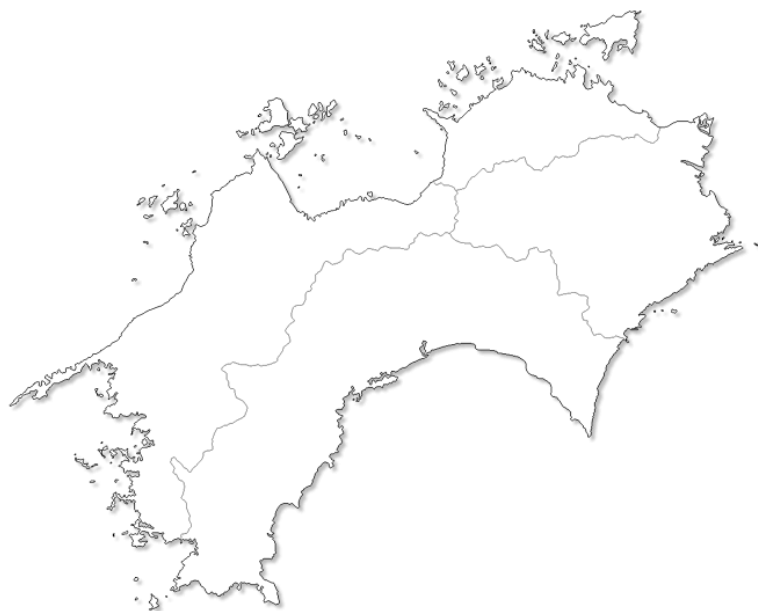


2020年10月

【訪日外国人旅行者の四国に関する意向調査 特別編】
新型コロナに関する緊急インバウンドアンケート

～DBJ・JTBFアジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度 新型コロナ影響度 特別調査）より～



<目次>

目次	2
◎ 調査の概要・回答者の属性	3
<u>分析結果のポイント</u>	4
<u>I. 新型コロナを受けた四国におけるインバウンド動向の変化</u>	
第1章 新型コロナ前後のインバウンド動向	5
1-1. 新型コロナ前後の延べ宿泊者数	6
1-2. 新型コロナ前後の客室稼働率	7
(参考) 過去発生した非常事態事例とインバウンド客数の推移	8
<u>II. 新型コロナに関する緊急インバウンドアンケート結果</u>	
第2章 2020年6月以降のインバウンド動向	9
2-1. 2020年6月以降の海外訪問における新型コロナ感染リスクへの不安度	10
2-2. 今後6ヶ月の間に実施するであろうレジャー	11
第3章 新型コロナ終息後のインバウンド動向	14
3-1. 新型コロナ終息後の海外観光旅行の意向	15
3-2. 新型コロナ終息後に海外観光旅行をしたい理由	17
3-3. 海外観光旅行の検討を再開するタイミング	18
3-4. 新型コロナ終息後の海外観光旅行の予算	19
3-5. 新型コロナ終息後の海外観光旅行の滞在日数	20
3-6. 新型コロナ終息後の四国旅行に期待したいこと	21
3-7. 交通事業者および宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策	23
3-8. 新型コロナ終息後の訪日旅行で希望する宿泊施設	24

◎ 調査の概要・回答者の属性

- 株式会社日本政策投資銀行（DBJ）は、2012年よりアジア8ヶ国・地域（韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア）の海外旅行経験者を対象としたインターネットによる「訪日外国人旅行者の意向調査」を実施している（2015年からは（公財）日本交通公社（JTBF）と共同で実施）。2016年からは欧米豪4ヶ国（英国、米国、フランス、オーストラリア）を加え、対象を12ヶ国・地域に拡大して調査を実施している。
- 今般、世界的に感染拡大が見られる新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）が外国人旅行者の海外旅行意向に与えた影響を調査すべく、**アジア・欧米豪12地域の海外旅行経験者6,266人を対象としたインターネットによる緊急アンケート調査を2020年6月2日～6月12日に実施**した。
- 当レポートは2020年8月に公表された「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（2020年度 新型コロナ影響度 特別調査）」より、四国に関する意向を中心にDBJ四国支店が分析を実施したものである。

■ 調査の概要

1. 調査の概要

□ 調査方法：インターネットによる調査

□ 実施時期：2020年6月2日～6月12日

□ 調査地域：韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスの12カ国・地域

（注）中国は北京および上海在住者のみ（割合は北京50%:上海50%）

（注）アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスの4カ国は2016年度調査から加わった。

□ 調査対象者：20歳～59歳の男女、かつ、海外旅行経験者

（注）中国-香港-マカオ間、マレーシア-シンガポール間、タイ-マレーシア間、アメリカ-カナダ・メキシコ・ハワイ・グアム間、オーストラリア-ニュージーランド間、イギリス・フランス-欧州各国間の旅行については、海外旅行経験から除く

□ 有効回答者数：上記各地域に居住する住民計 6,266人

□ 協力実査会社：楽天インサイト株式会社

2. 当レポートの留意点

- 国・地域別に分析する際、四国訪問希望者の回答者が少ない国・地域があるため留意を要する。

■ 回答者の内訳

（単位：人）

項目	全体	アジア全体									欧米豪全体				
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス		
合計(A)	6,266	4,194	529	548	530	511	521	517	520	518	2,072	520	525	505	522
内、訪日経験者	3,006	2,583	382	419	439	428	316	282	162	155	423	113	123	79	108
内、四国訪問経験者	303	242	12	57	44	56	35	17	9	12	61	22	14	6	19
内、四国訪問希望者(B)	340	278	7	52	49	55	42	32	11	30	62	17	17	11	17
(B/A比率)	5.4%	6.6%	1.3%	9.5%	9.2%	10.8%	8.1%	6.2%	2.1%	5.8%	3.0%	3.3%	3.2%	2.2%	3.3%

<分析結果のポイント>

本調査における「四国訪問希望者」※の動向のポイントをまとめると以下の通りとなる。

1. 2020年6月以降のインバウンド動向

- 2020年6月以降の6ヶ月間で実施を予定・検討しているレジャーでは、「国内旅行（日帰り、宿泊）」は「外食」「買い物」「屋外での運動」に次いで、実施される可能性が6割強と高くなっているのに対し、「海外旅行」は回答割合が3～4割に留まっている。
- さらに、海外旅行の中でも、飛行機の移動時間が長くなるほど回答割合が低下しており、海外旅行のハードルは長距離移動になるほど高い。
- 以上より、旅行需要は国内から回復し、海外旅行は近隣国から再開されることが予想される。

2. 新型コロナ終息後のインバウンド動向

- 新型コロナ終息後における海外観光旅行の意向は、アジア・欧米豪ともに9割を超えており、海外観光旅行の意向は極めて強い。また、海外観光旅行先として日本の人気アジア・欧米豪ともに引き続き高いことから、新型コロナ終息後の訪日旅行意向が高いと言える。
- 新型コロナ終息後に海外観光旅行をしたい理由としては、アジア・欧米豪ともに「リラックスや癒しを得たいから」や「海外で体験したいことがあるから」の回答が多くなっている。新型コロナ終息後の誘客にあたっては、こうした外国人旅行者のニーズを具体的に捉えることが求められる。
- 海外観光旅行の検討を再開するタイミングとしては、「渡航希望先の安全宣言後」、「抗ウイルス薬の開発など、新型コロナの脅威が消滅してから」、「WHOのパンデミック終息宣言後」という回答が多く、四国を訪れる外国人旅行者が従前通りに戻るには相応の時間を要すると考えられる。
- 新型コロナ終息後の海外観光旅行の予算については、予算が「上がる」との回答がアジア・欧米豪ともに過半を占めており、新型コロナ終息後に四国を訪れる外国人旅行者の消費単価が上昇する可能性がある。
- 新型コロナ終息後の海外観光旅行の滞在日数については、滞在日数が「長くなる」との回答が「短くなる」を大幅に上回っており、新型コロナ終息後に四国を訪れる外国人旅行者がより長期滞在を求める可能性がある。
- 新型コロナ終息後に四国旅行に期待したいこととしては、アジア・欧米豪ともに「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウイルス対策全般の継続」が多くなっており、安全・安心の取り組みを徹底することが求められる。
- 上記に加え、四国旅行に期待したいこととして「自然体験アクティビティ」を挙げる割合が訪日旅行全般と比較して高いことから、四国の自然を活かした体験型コンテンツにポテンシャルがあると言える。

3. 調査結果を踏まえて

以上より、四国訪問希望者における新型コロナ終息後の訪日旅行意向は高いものの、本格的な旅行需要の回復には相応の時間を要すると考えられる。交通機関や宿泊施設等では、引き続きウイルス対策全般を継続し安全・安心に関する取り組みを進めることが重要であると言える。

また、四国訪問希望者の新型コロナ終息後の旅行形態として、予算の増加や滞在日数の長期化の可能性もある。そのため、外国人旅行者の満足度を高めるべく、四国の自然を活用した体験型観光コンテンツの磨き上げ等を、今のうちから行っておくことが重要だと考える。

※「四国訪問希望者」：「あなたが新型コロナ終息後に観光目的で訪日するとして、次に訪りたい地域」の中から「四国」を選択した回答者（複数回答）

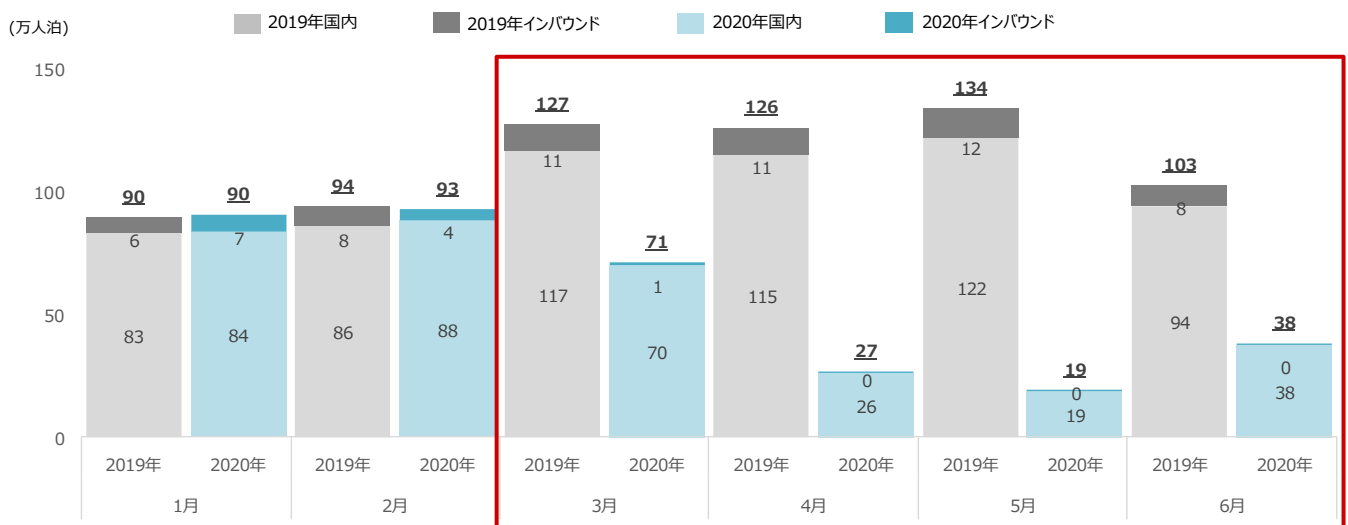
I. 新型コロナを受けた四国におけるインバウンド動向の変化

第1章 新型コロナ前後のインバウンド動向

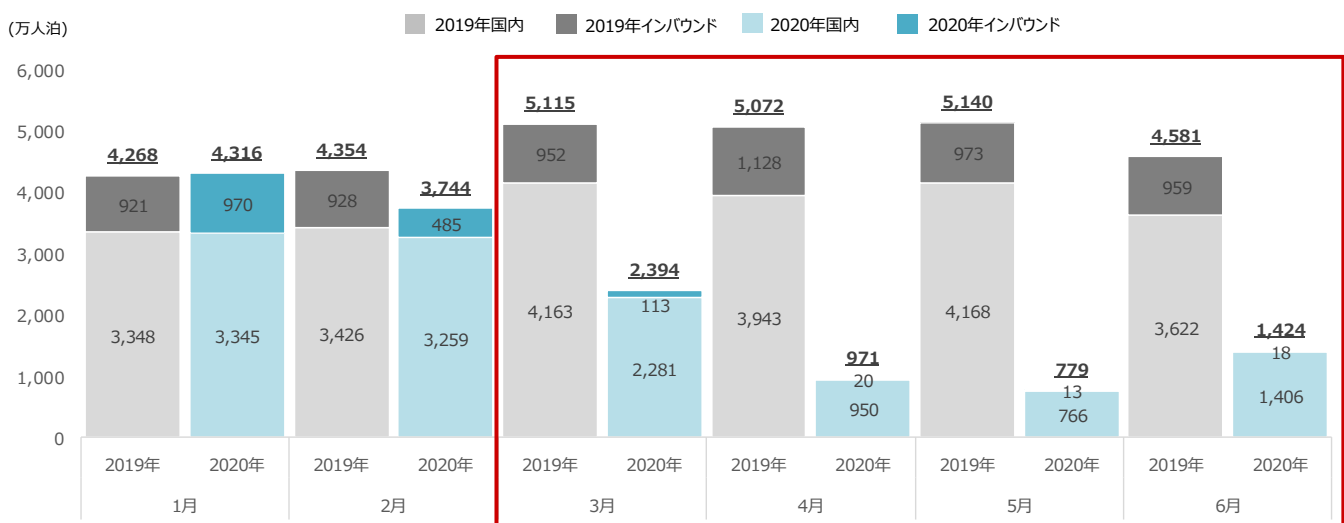
1-1. 新型コロナ前後の延べ宿泊者数

- 新型コロナウイルスが発生した前後の延べ宿泊者数をみると、全国、四国ともに2020年3月以降の延べ宿泊者数が減少傾向にある。
- 全国、四国ともに、県を跨いだ移動の自粛が解除された6月の延べ宿泊者数が、前月よりも増加しているものの、前年同月と比較すると継続して激減している状況である。
- 国内宿泊者数の減少も然ることながら、インバウンドの減少幅は特に大きい。全国、四国ともに、これまで順調に成長していたインバウンド需要がほぼ消失していると言える。

(図表1) 新型コロナ前後の延べ宿泊者数【四国】



(図表2) 新型コロナ前後の延べ宿泊者数【全国】



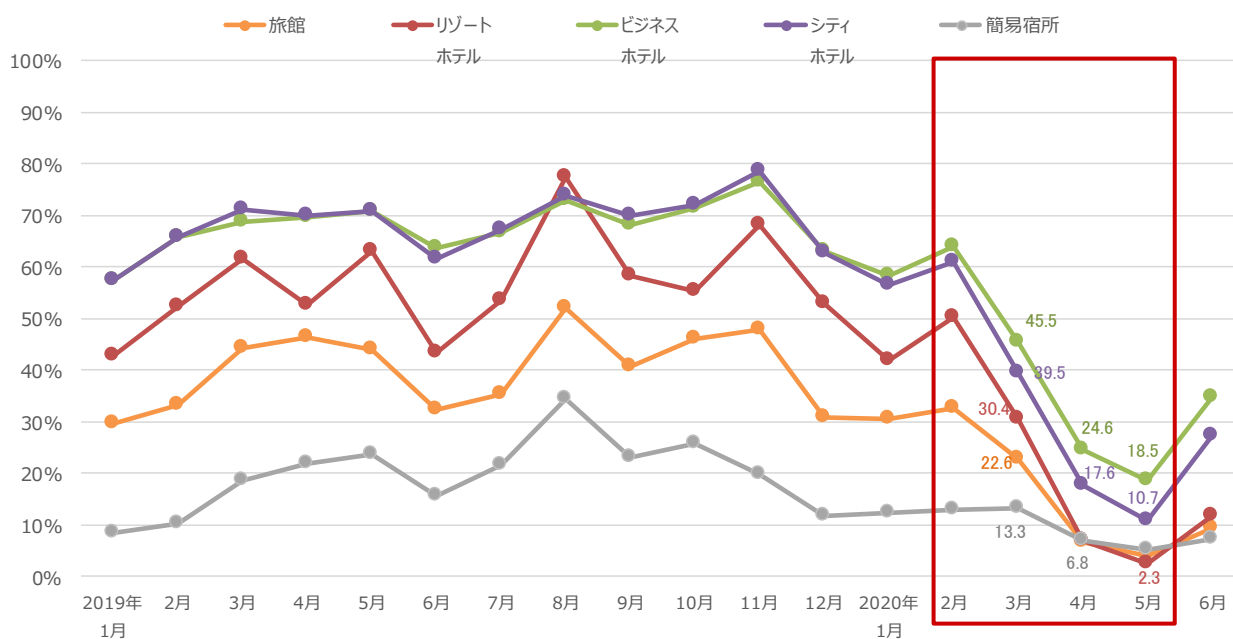
出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

1-2. 新型コロナ前後の客室稼働率

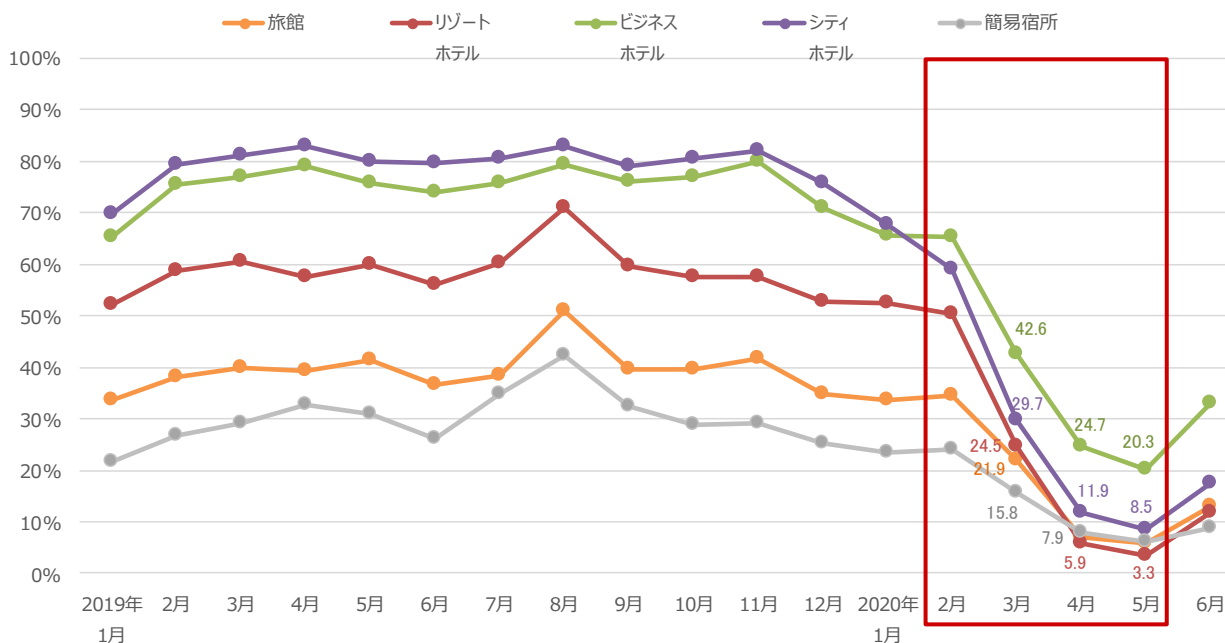
- 新型コロナウイルスが発生した前後の客室稼働率の推移を見ると、全国、四国ともに2020年1月までは前年同月程度の稼働率を維持していたが、同年2月には各施設タイプで前年割れとなり、同年3月には急降下している。
- 全国と四国を比較すると、同年3月は、ビジネスホテル、シティホテル、リゾートホテルの施設タイプで全国の稼働率を上回っている。
- 緊急事態宣言が発令された同年5月は、通常であればゴールデンウィーク時期のため稼働率が高くなるが、今年は宿泊需要が底をついた時期であった。一方、緊急事態宣言および県を跨いだ移動自粛が解除された6月は、全国、四国ともにやや持ち直しが見られる。

※Go To トラベルキャンペーン（7/22開始）の影響は含まれていない。

（図表3）新型コロナ前後の客室稼働率【四国】



（図表4）新型コロナ前後の客室稼働率【全国】

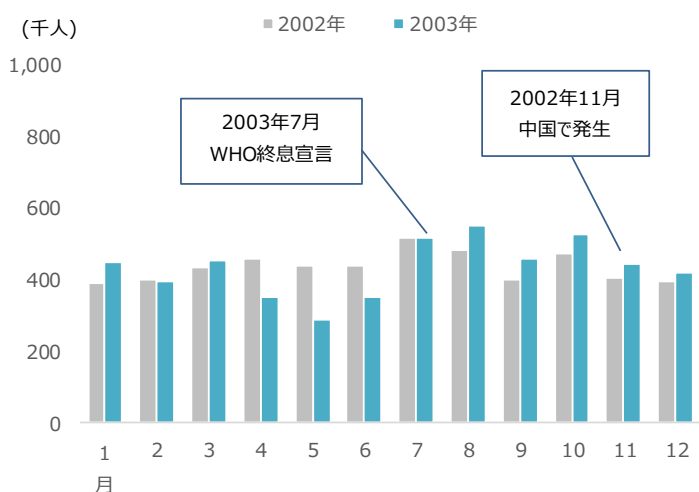


出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」

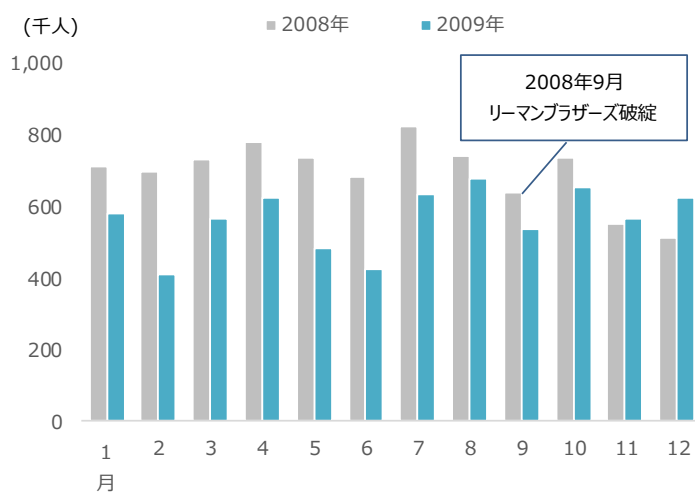
(参考) 過去発生した非常事態事例とインバウンド客数の推移

- 2002年11月に中国で初めてSARSの発症が報告され、以降アジアやカナダを中心に感染が拡大した。日本への影響は2003年4月頃から見え始め、WHOから終息宣言が出される同年7月までは下降したが、以降は前年同月比でプラスとなり、3カ月程度と比較的短期間で回復した。
- 2008年9月のリーマンブラザーズ経営破綻を引き金とし世界規模の金融危機が起こった、いわゆるリーマンショック時は、同年11月以降のインバウンド客数は前年同月を下回り続け、回復まで約1年を要したものと見込まれる。
- 2011年3月に発生した東日本大震災の時は、3月と4月は減少傾向が見られたが、5月以降回復傾向を見せ、同年末にはおおよそ前年同月水準近くのインバウンド客数を確保するに至った (9カ月程度で回復)。
- 2019年12月に中国武漢市で発生した新型コロナウイルスにより、2019年にインバウンド客数が過去最高を記録したものの、2020年2月から激減し、3月時点でほぼインバウンド客が消失した。

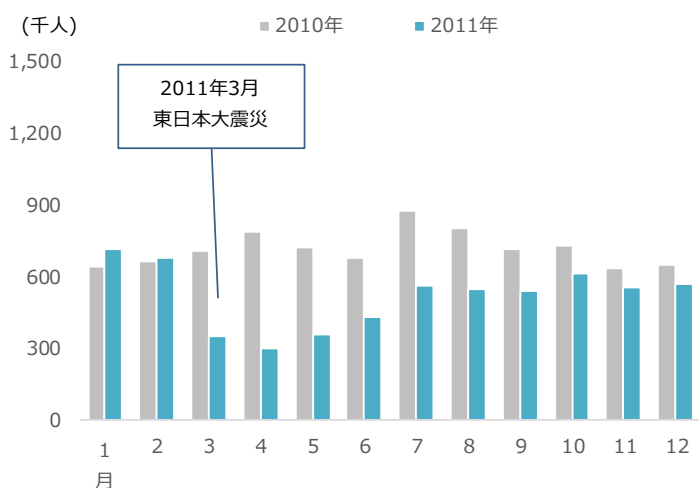
(図表5) SARSの場合
インバウンド客数の推移



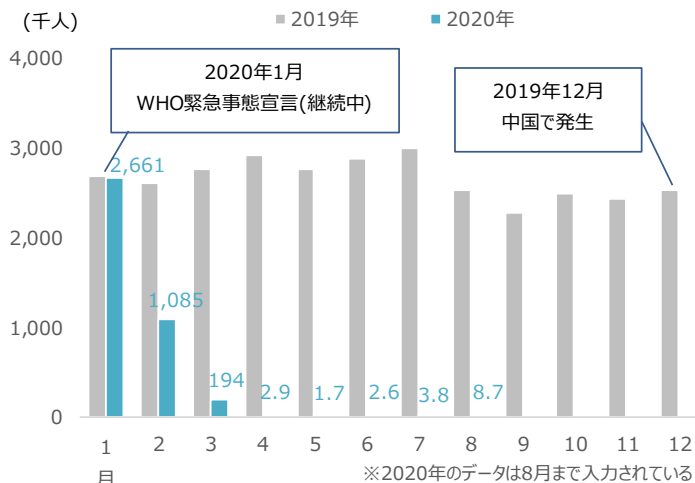
(図表6) リーマンショックの場合
インバウンド客数の推移



(図表7) 東日本大震災の場合
インバウンド客数の推移



(図表8) 新型コロナの場合
インバウンド客数の推移



Ⅱ. 新型コロナに関する緊急インバウンドアンケート結果

第2章 2020年6月以降の インバウンド動向

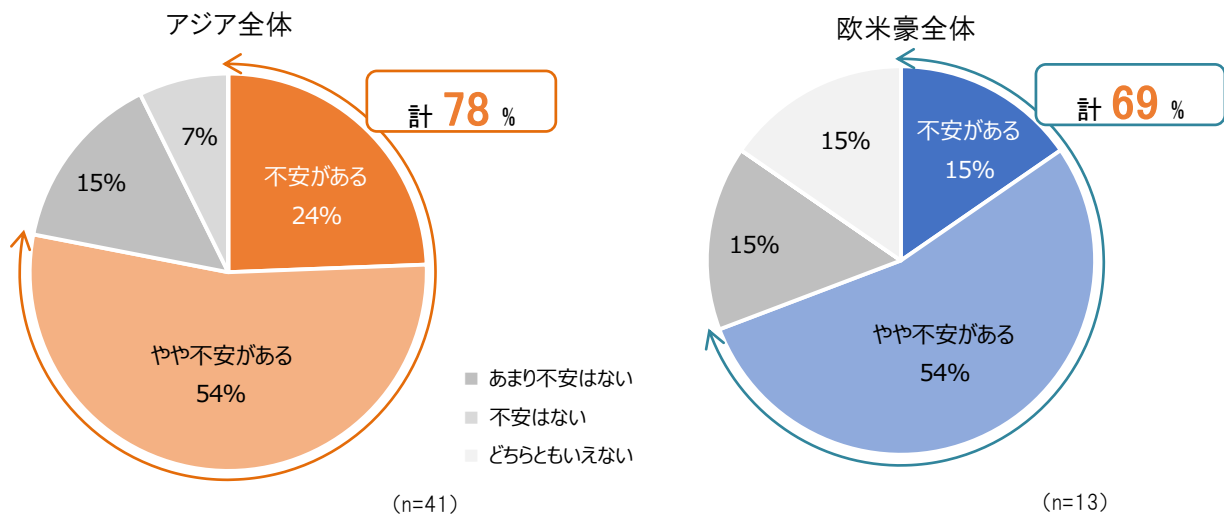
※本アンケートの実施時期が2020年6月であったため、2020年6月以降の予定・見込として質問を行っている。

2-1. 2020年6月以降の海外訪問における新型コロナ感染リスクへの不安度

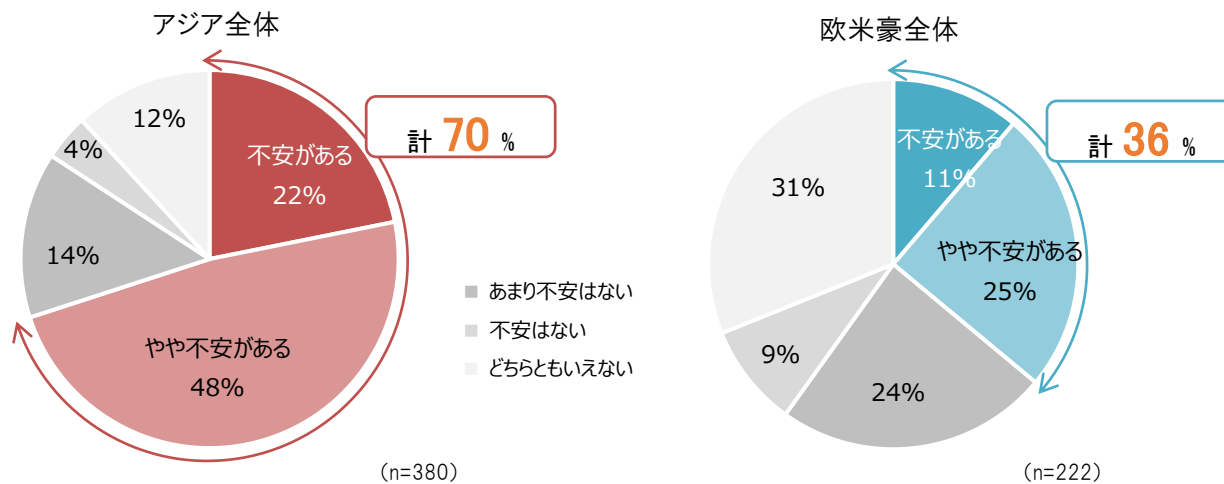
- 2020年6月以降の海外訪問における新型コロナ感染リスクへの不安度を聞いたところ、「不安がある」「やや不安がある」と回答した人の割合は、アジア78%、欧米豪69%となった。
- 海外訪問予定者兼四国訪問希望者は母数が少ないため参考値ではあるものの、海外訪問予定者全体よりも新型コロナへ感染リスクへの不安度が高い結果となった。
- 回答者全体では、欧米豪よりもアジアの新型コロナに対する不安度の高さがうかがえる。
- こうした結果を踏まえ、受入側は引き続き新型コロナ対策を実施し、積極的な情報発信を通して旅行者の不安を払拭することが求められる。

Q. 2020年6月以降の海外訪問について、新型コロナウィルス感染症拡大に伴うご自身の感染リスクへの不安についてあてはまるものを選んでください。（回答はひとつ）

■海外訪問予定者 兼 四国訪問希望者



■海外訪問予定者

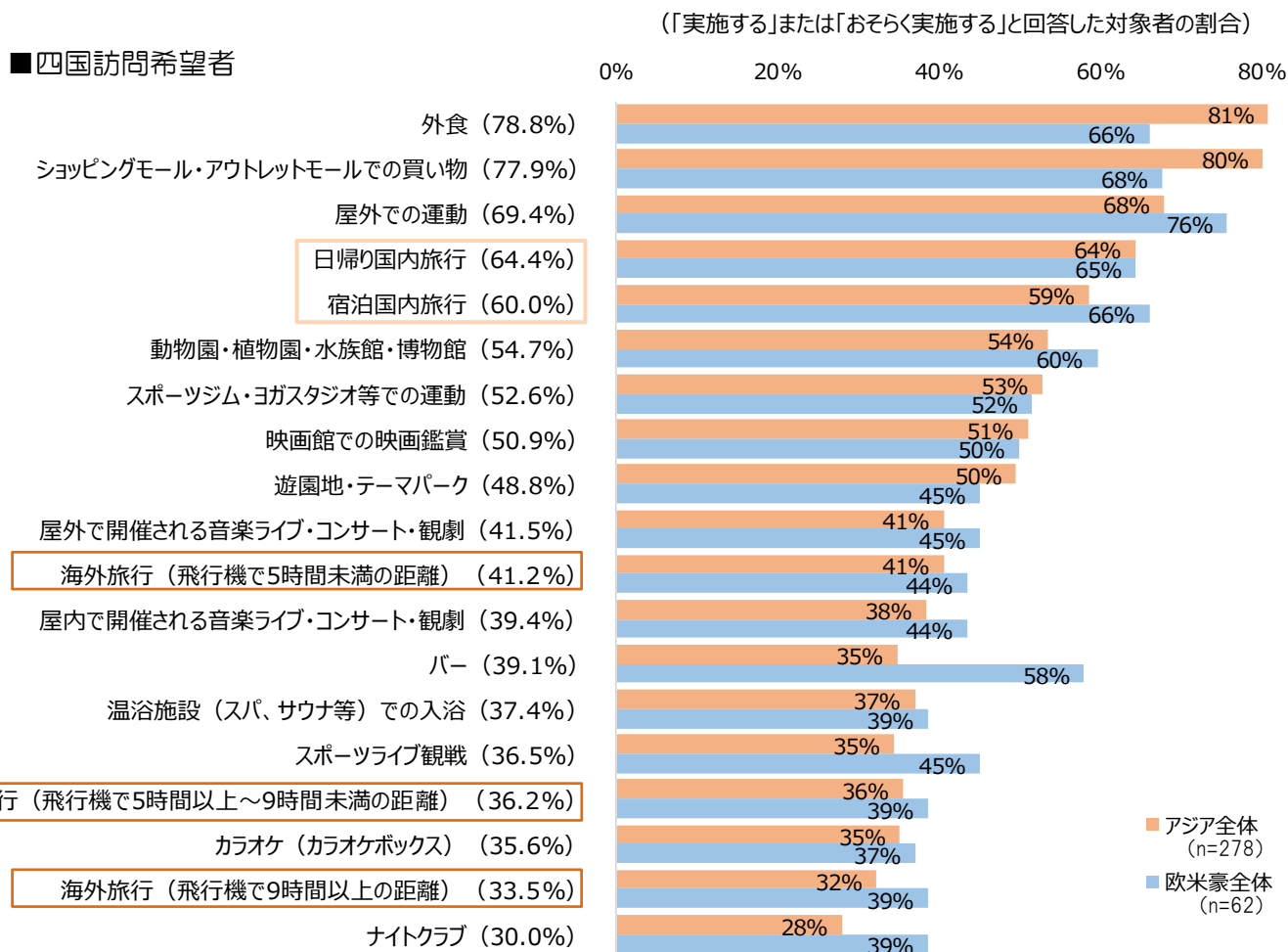


2-2. 今後6ヶ月の間に実施するであろうレジャー

四国訪問希望者

- 今後6ヶ月以内に実施するであろうレジャーについて聞いたところ、国内旅行（日帰り、宿泊）を「実施する」「おそらく実施する」と回答した人の割合は全体で6割以上となっているのに対し、海外旅行の同割合は下位となっている。
- 飛行機で5時間未満の海外旅行を「実施する」または「おそらく実施する」と回答した人の割合は約4割となっており、飛行機の移動時間が長くなるほど回答割合は低下していることから、海外旅行のハードルは長距離移動になるほど高いと言える。
- 以上は、回答者全体(次頁)と同様の結果となった。

Q.今後6カ月の間に実施するであろうレジャー全般についてあてはまるものを選んでください。
(回答はそれぞれひとつ)



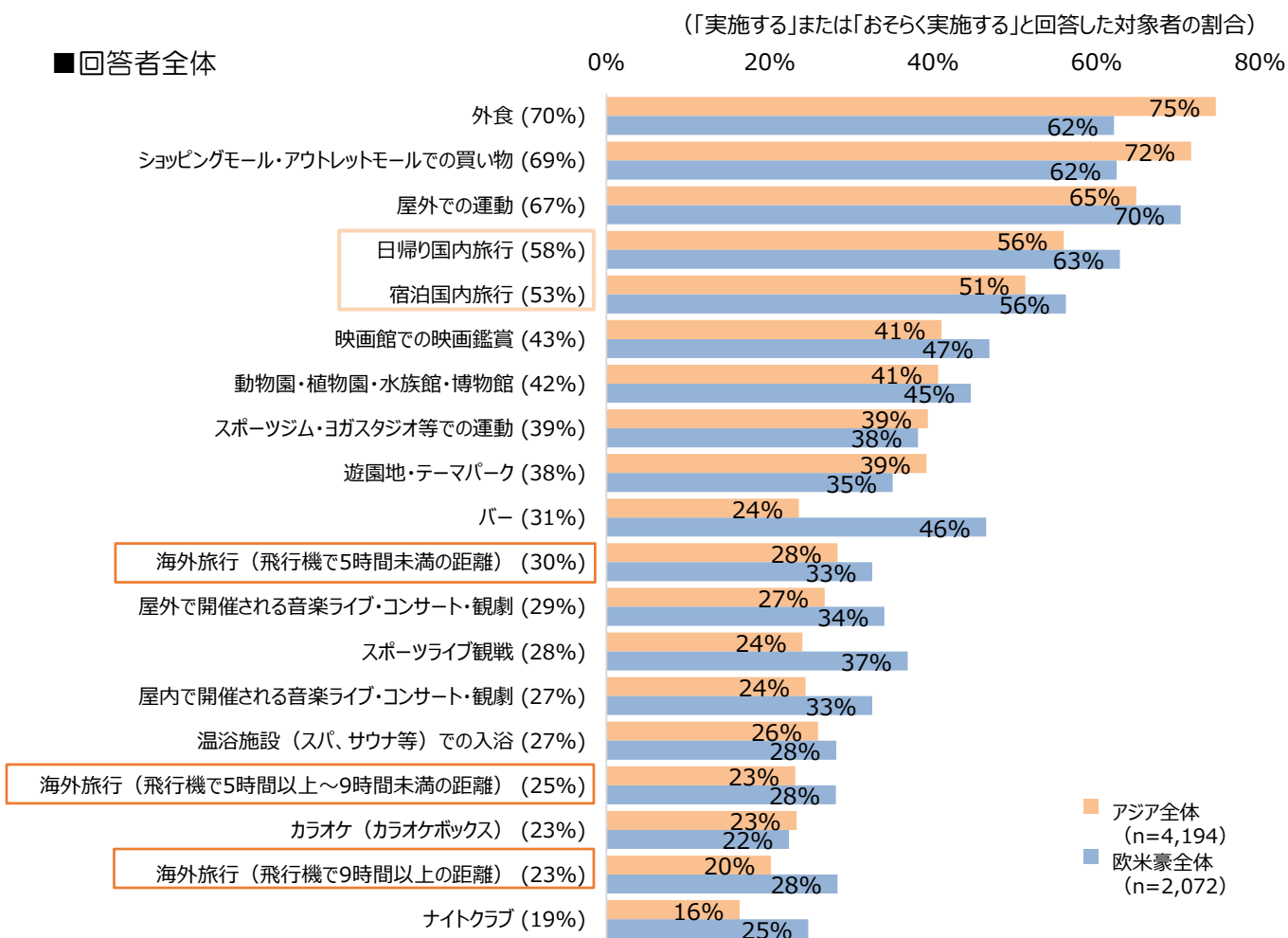
※各項目における括弧内の値は全体（アジア居住者 + 欧米豪居住者）

(参考) 今後6ヶ月の間に実施するであろうレジャー

回答者全体

- 回答者全体においては、海外旅行を「実施する」または「おそらく実施する」と回答した割合は、いずれの飛行時間においても四国訪問希望者より低くなっている。
- アジアと欧米豪を比較すると、「外食」、「買い物」、「スポーツジム・ヨガスタジオ等での運動」、「遊園地・テーマパーク」、「カラオケ」を除く全ての項目において、欧米豪はアジアよりも「実施する」または「おそらく実施する」という回答を選んだ割合が高い。

Q.今後6カ月の間に実施するであろうレジャー全般についてあてはまるものを選んでください。
(回答はそれぞれひとつ)



※各項目における括弧内の値は全体 (アジア居住者 + 欧米豪居住者)

Ⅱ. 新型コロナに関する緊急インバウンドアンケート結果

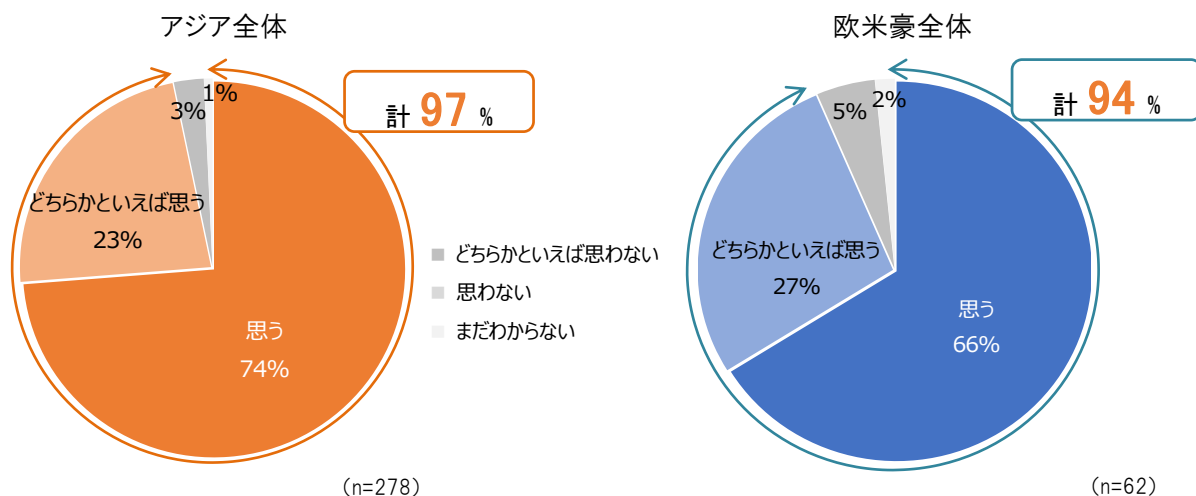
第3章 新型コロナ終息後のインバウンド動向

3-1. 新型コロナ終息後の海外観光旅行の意向

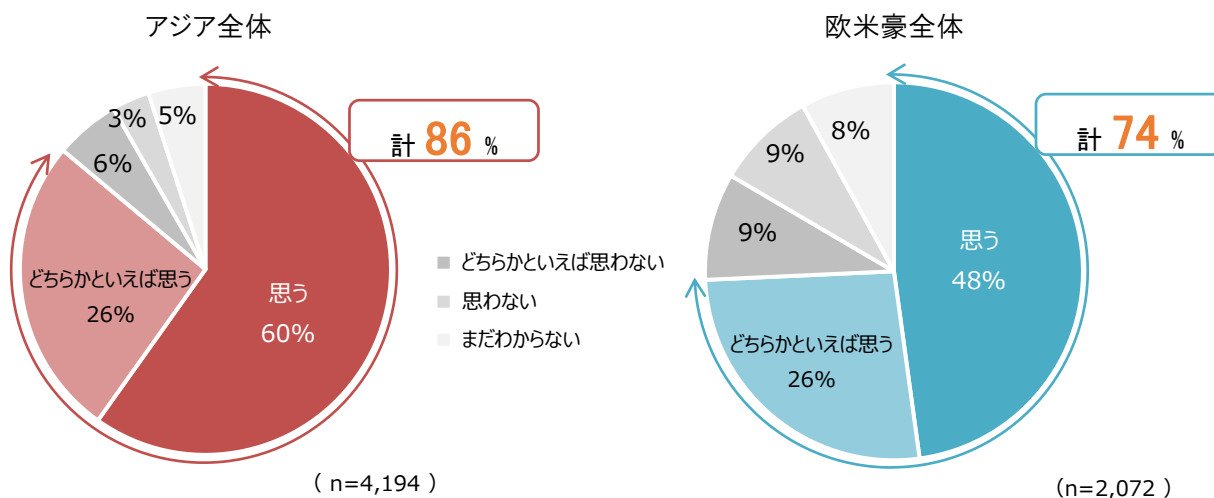
- 新型コロナ終息後に海外観光旅行をしたいと思っている人の割合は、アジア97%、欧米豪94%となっており、アジア・欧米豪ともに海外観光旅行の意向は極めて強いと言える。
- 回答者全体と比較しても、四国訪問希望者の海外観光旅行意向の方がアジア・欧米豪ともに高くなっている。

Q.新型コロナウイルスの流行が終息し、平常状態に戻ったとき、また海外観光旅行をしたいと思えますか。（回答はひとつ）

■四国訪問希望者



■回答者全体



(参考) 新型コロナ終息後に観光旅行したい国・地域

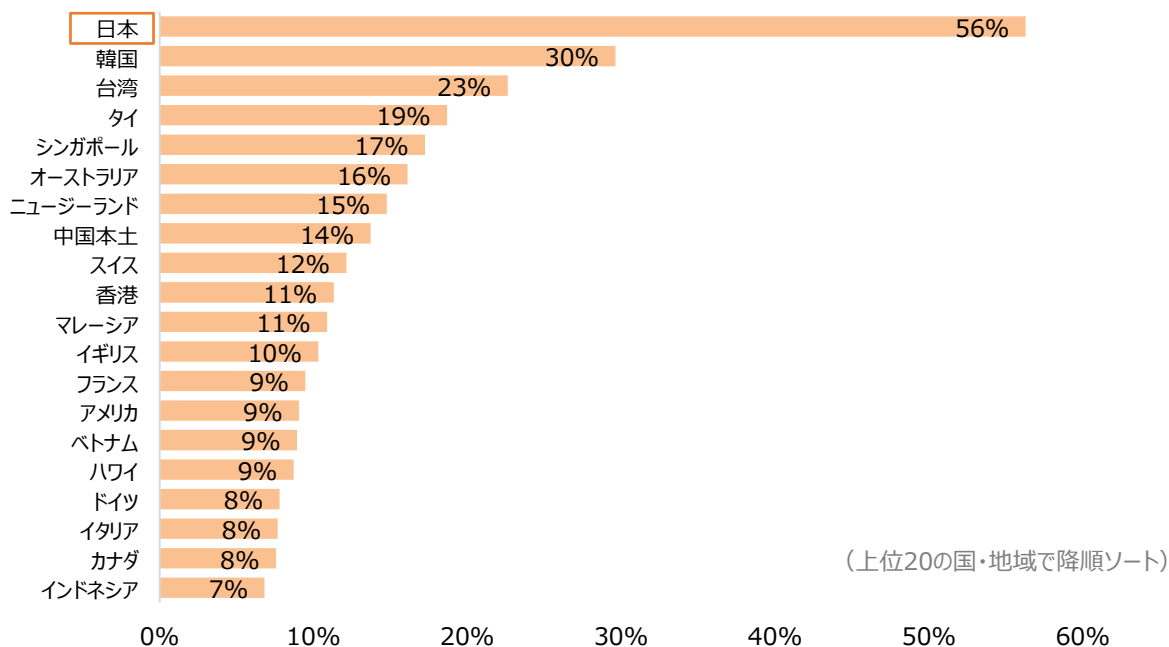
海外旅行希望者

- 新型コロナ終息後においても、海外観光旅行先としての日本人気は引き続き高く、アジア居住者ではトップ(56%)、欧米豪居住者でも2位(24%)の人気となっている。

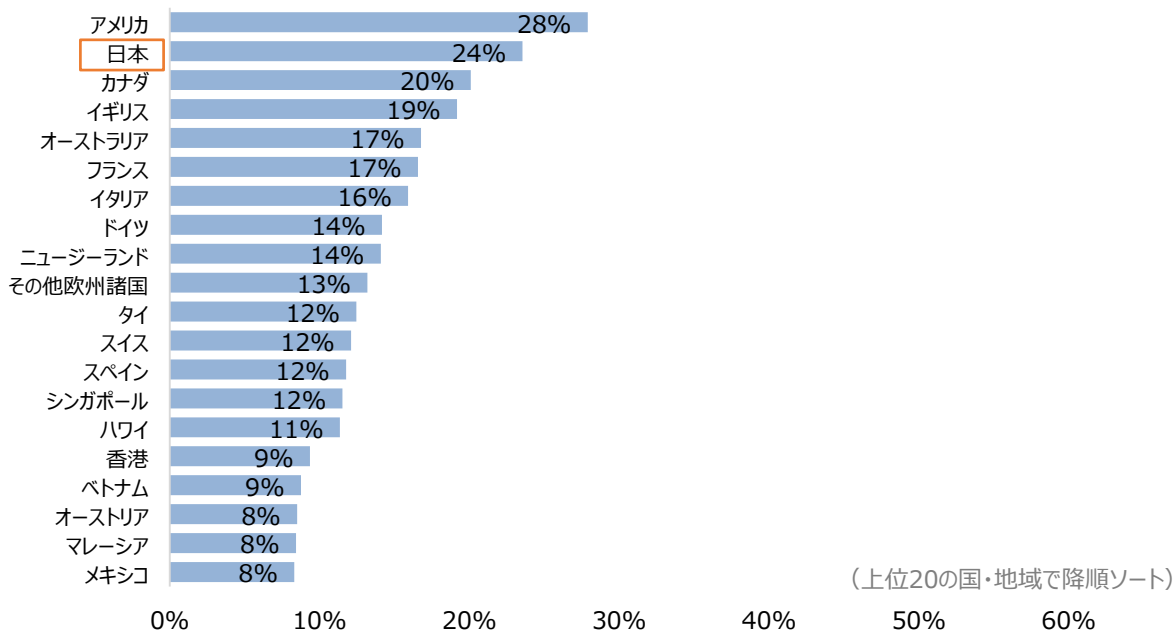
※2019年度通常調査(2019年6月25日~7月8日実施。以下、「通常調査」という。)において、日本の選択率は、アジア居住者55%(1位)、欧米豪居住者39%(6位)であった。

Q. 新型コロナの流行終息後に、あなたが観光旅行したい国・地域をお選び下さい。

アジア全体 (n=3,822)



欧米豪全体 (n=1,840)



※1 新型コロナ終息後の海外観光旅行について「(したい) 思わない」を選択した対象者および次に海外観光旅行の検討を再開するタイミングについて「現在の状況からは海外旅行の検討再開は考えられない」と回答した対象者を除く全員から回答を得た。

※2 「旅行したい国・地域」と「回答者の国・地域」または「近隣国」が同じ場合、当該国・地域の回答はサンプル数から除いている。

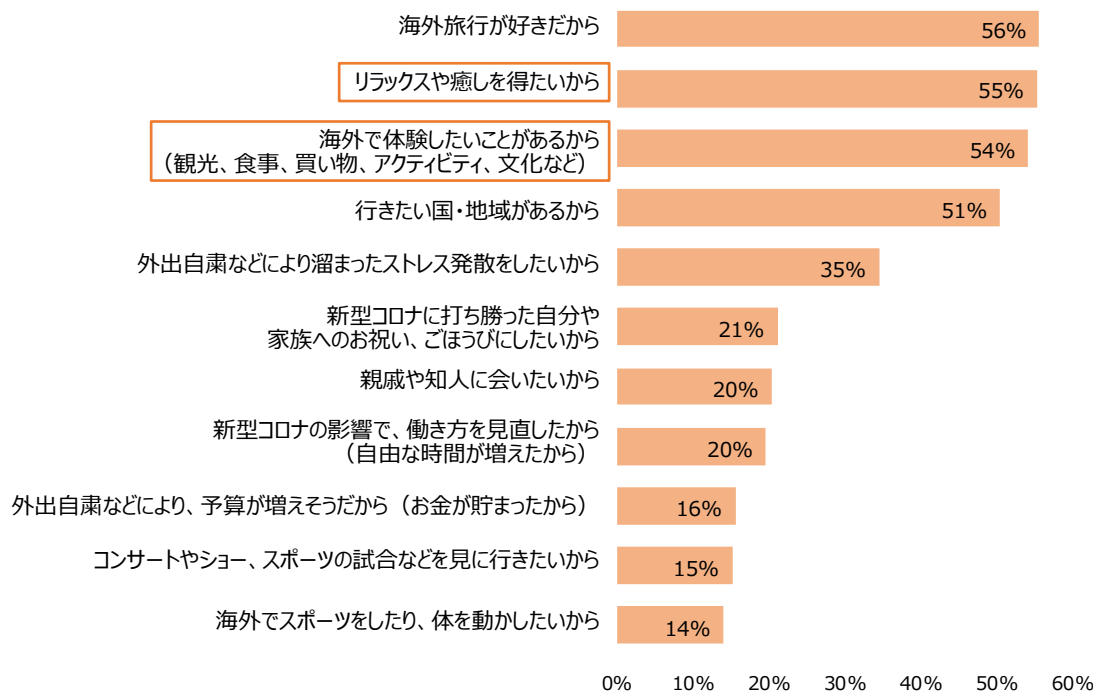
3-2. 新型コロナ終息後に海外観光旅行をしたい理由

四国訪問希望者

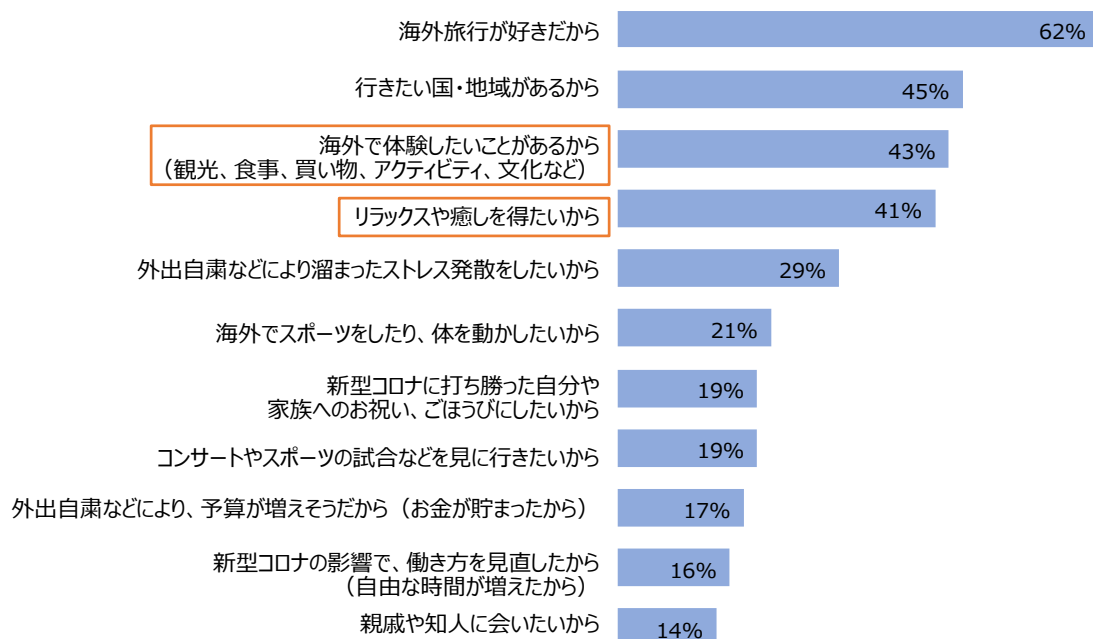
- ・ 新型コロナ終息後に海外観光旅行をしたい理由としては、アジア・欧米豪ともに「海外旅行が好きだから」という回答が最も多い。
- ・ 「リラックスや癒しを得たいから」や「海外で体験したいことがあるから」の理由も、アジア・欧米豪ともに上位にきており、新型コロナ終息後は、こうした外国人旅行者のニーズを具体的に捉えることが求められる。

Q.新型コロナウィルス流行の終息後、海外観光旅行をしたいと思う理由について教えてください。
(回答はあてはまるもの全て)

アジア全体 (n=269)



欧米豪全体 (n=58)



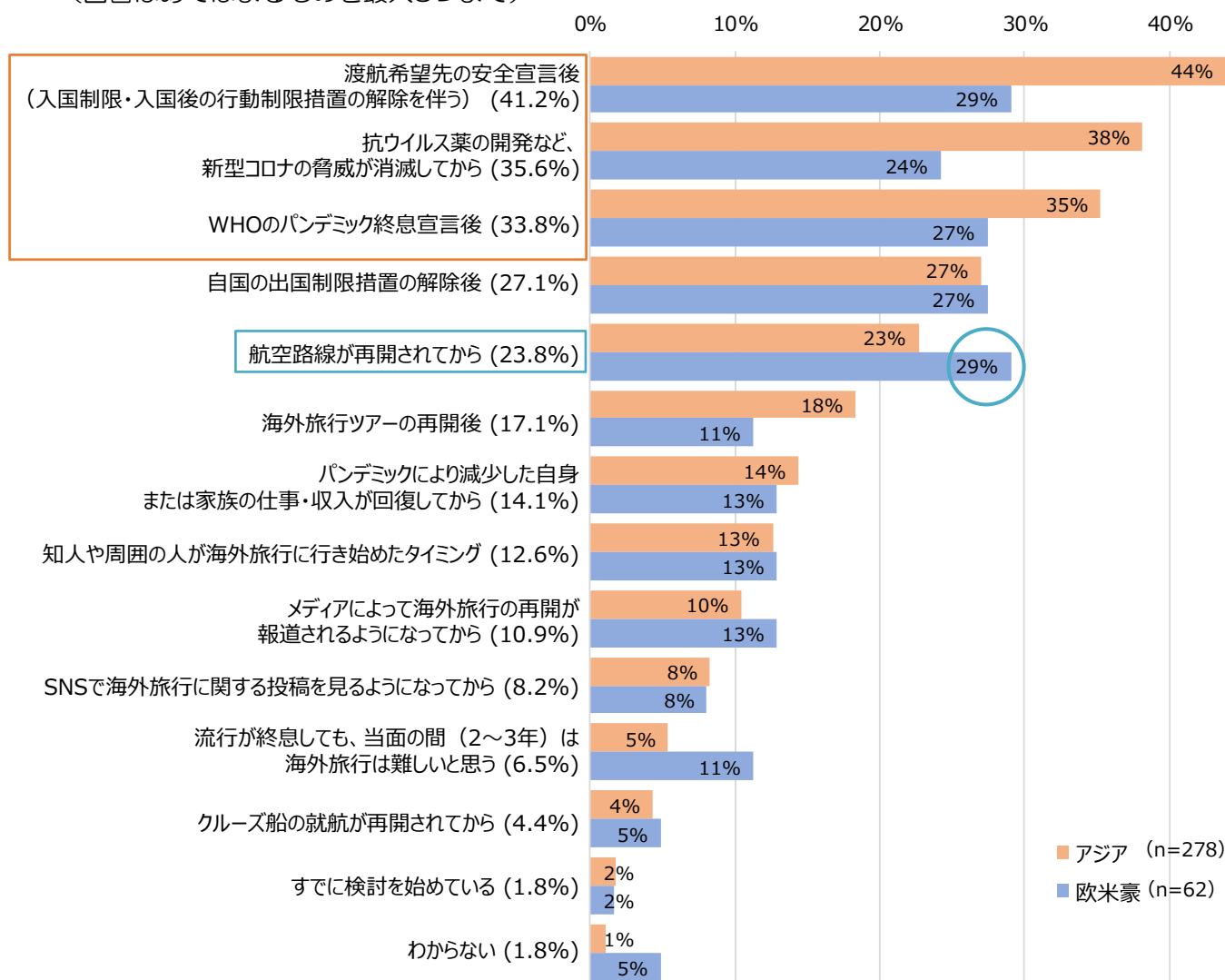
3-3. 海外観光旅行の検討を再開するタイミング

四国訪問希望者

- 海外観光旅行の検討を再開するタイミングは、全体的に「渡航希望先の安全宣言後」、「抗ウイルス薬の開発など、新型コロナウイルスの脅威が消滅してから」、「WHOのパンデミック終息宣言後」という回答が多くなっている。
- 欧米豪では「航空路線が再開されてから」の回答も多くなっており、航路等のアクセス再開を機として、海外観光旅行の検討を始める人が多い様子がうかがえる。
- 訪日外国人旅行者が従前通りに戻るには相応の時間を要すると言える。

Q.次に海外観光旅行の検討を再開するタイミングはいつ頃になるとお考えですか。

(回答はあてはまるものを最大3つまで)

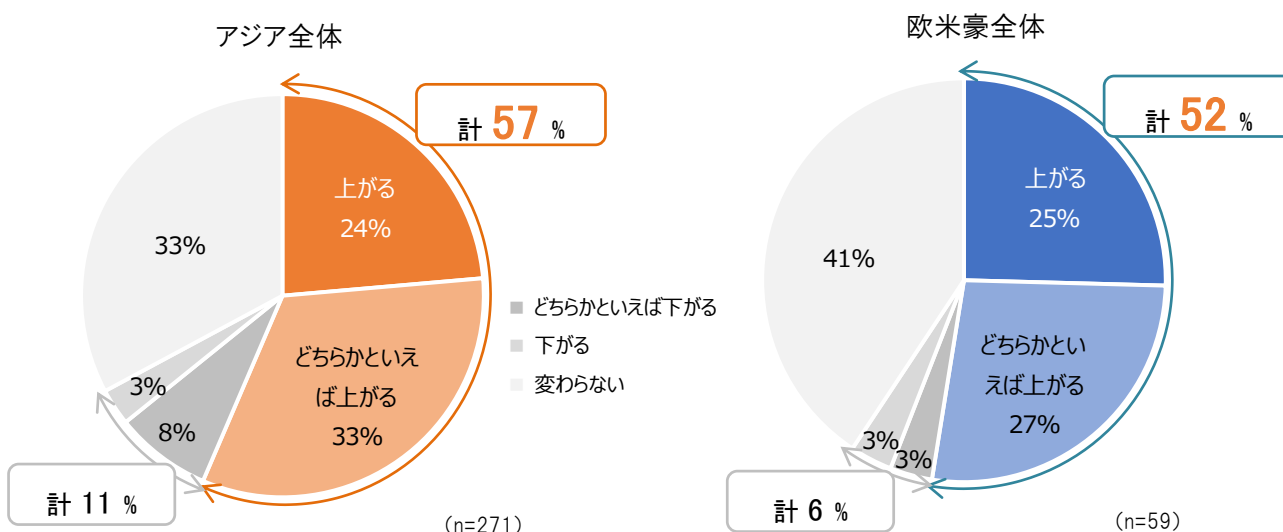


3-4. 新型コロナ終息後の海外観光旅行の予算

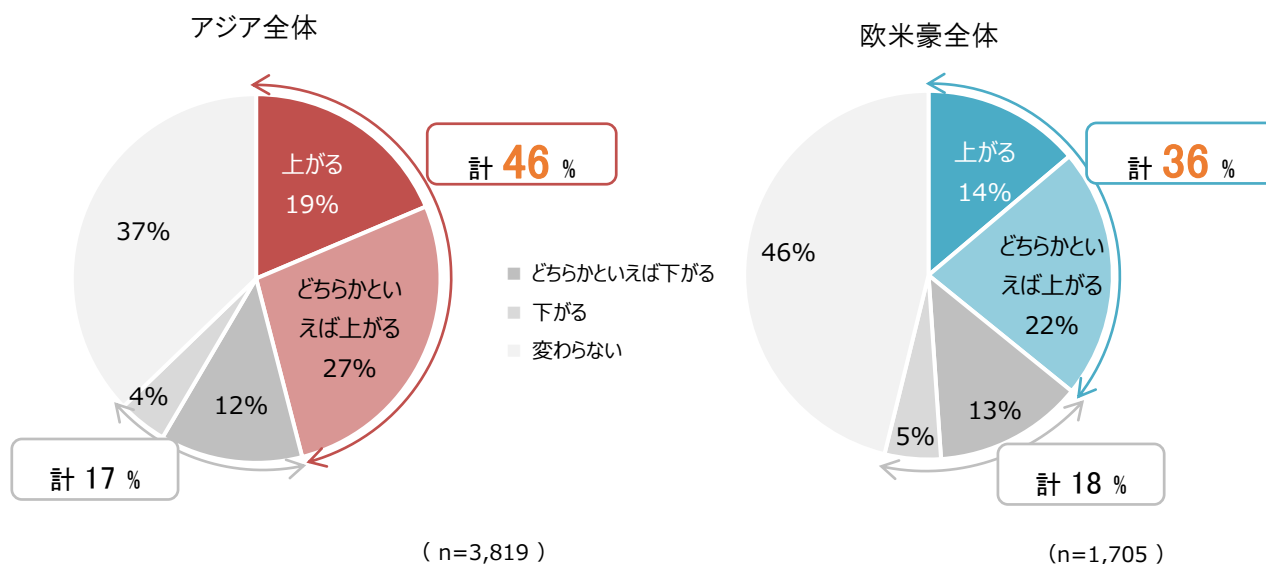
- 新型コロナ終息後の海外観光旅行について、予算が「上がる」「どちらかと言えば上がる」と回答した人の割合は、アジア57%、欧米豪52%といずれも過半数に達しており、回答者全体と比較してもその割合は高くなっている。
- 新型コロナ終息後に四国を訪れる外国人旅行者の消費単価が上昇する可能性があることから、地域における消費額を増やし、経済効果を高めるための施策が引き続き重要であると言える。

Q. 新型コロナウィルスの終息後、あなたの海外観光旅行の予算はどのように変化したいと思いますか。
(回答はひとつ)

■四国訪問希望者



■海外旅行希望者

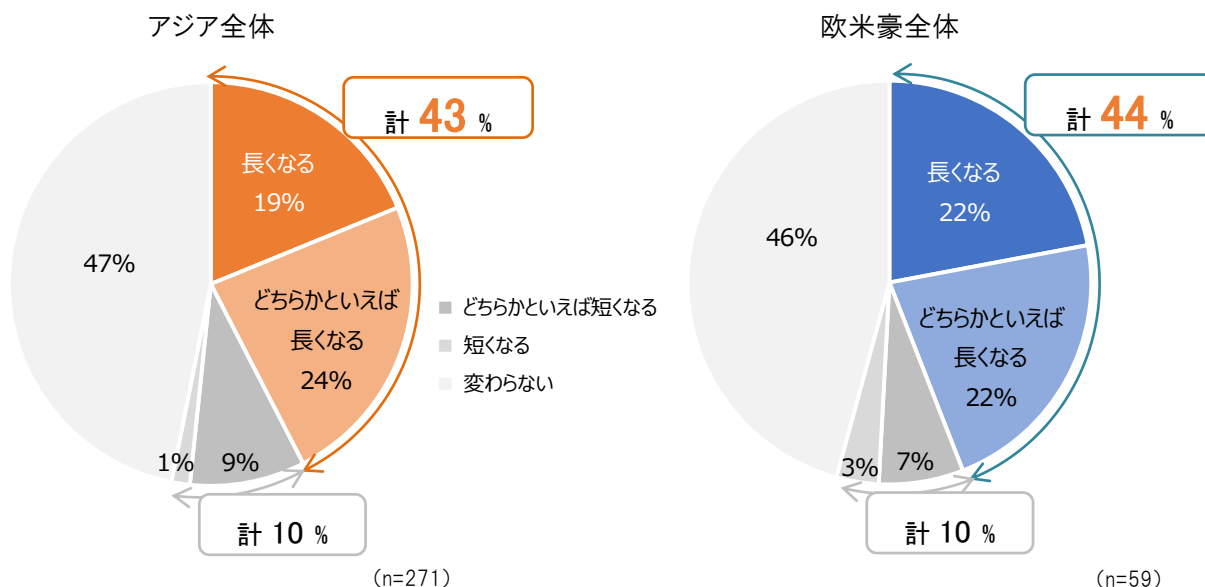


3-5. 新型コロナ終息後の海外観光旅行の滞在日数

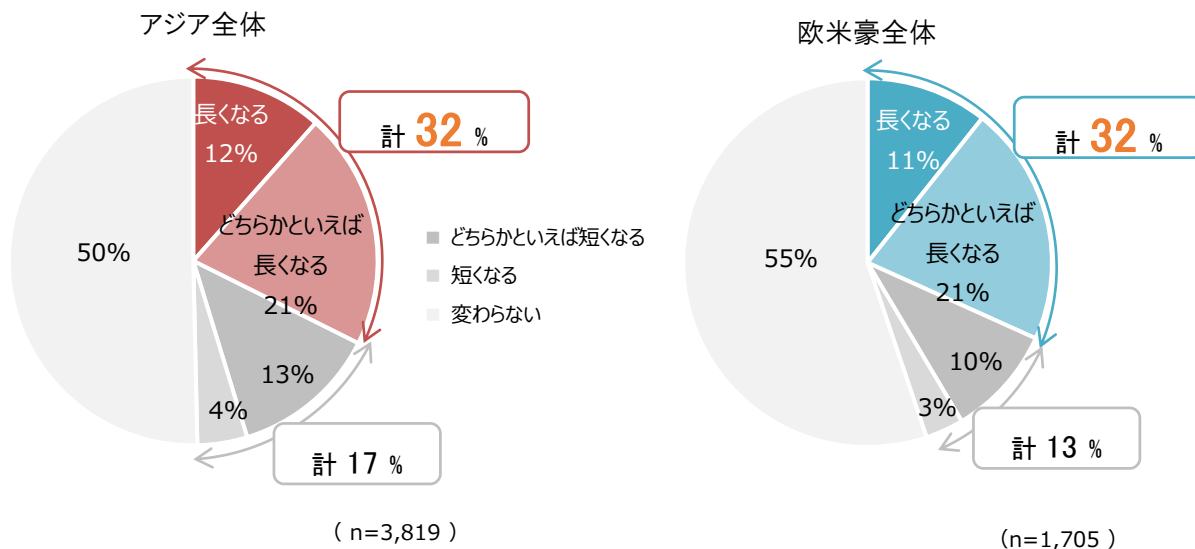
- 新型コロナ終息後の海外観光旅行について滞在日数が「長くなる」「どちらかといえば長くなる」と回答した人の割合は、アジア43%、欧米豪44%と、「短くなる」「どちらかといえば短くなる」の同割合を大幅に上回っており、回答者全体と比較しても高くなっている。
- 新型コロナ終息後に四国を訪れる外国人旅行者がより長期滞在を求める可能性があることから、滞在を満足してもらうためのコンテンツを今から磨いていく必要があると言える。

Q.新型コロナウィルスの終息後、海外観光旅行の滞在日数はどのように変化したいと思いますか。以下の選択肢からお選びください。（回答はひとつ）

■四国訪問希望者



■海外旅行希望者



3-6. 新型コロナ終息後の四国旅行に期待したいこと

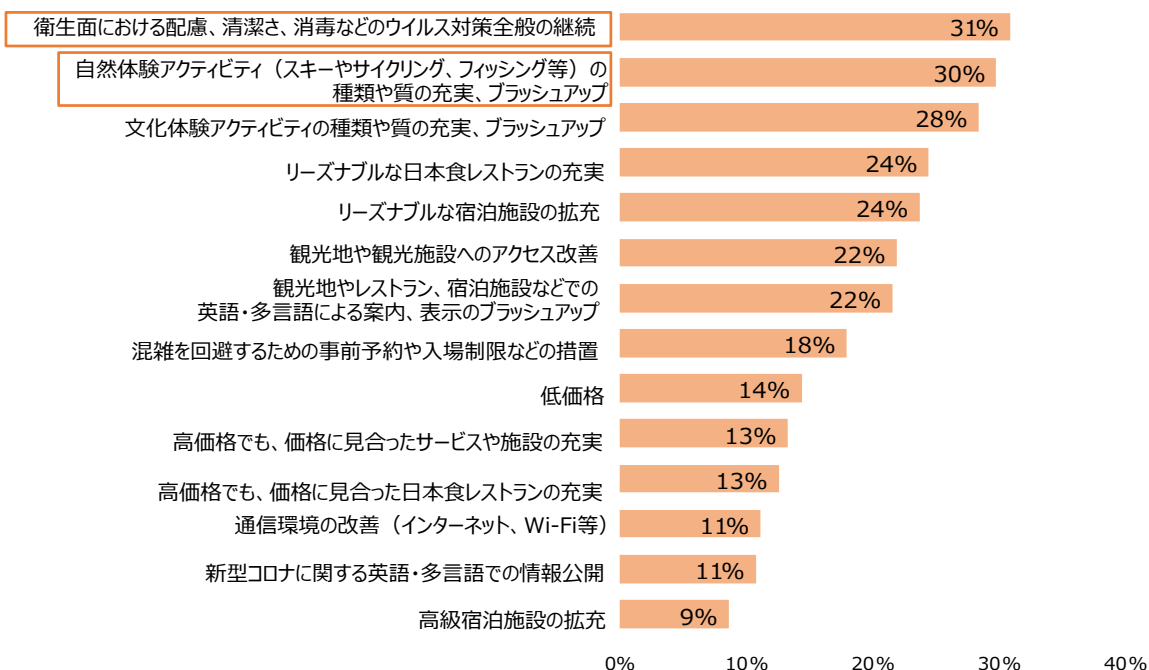
四国訪問希望者

- 新型コロナ終息後の四国旅行に期待したいことを聞いたところ、アジア・欧米豪ともに「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウイルス対策全般の継続」が多くなっており、安全・安心の取り組みを徹底することが求められる。
- 訪日旅行全般に期待すること（次頁）と比較すると、「自然体験アクティビティの種類や質の充実、ブラッシュアップ」を期待する割合が高くなっていることから、四国の自然を活かした体験型コンテンツを充実させていくことが有効であると言える。
- 欧米豪では、「高価格でも、価格に見合った日本食レストランの充実」を期待する割合も高い。

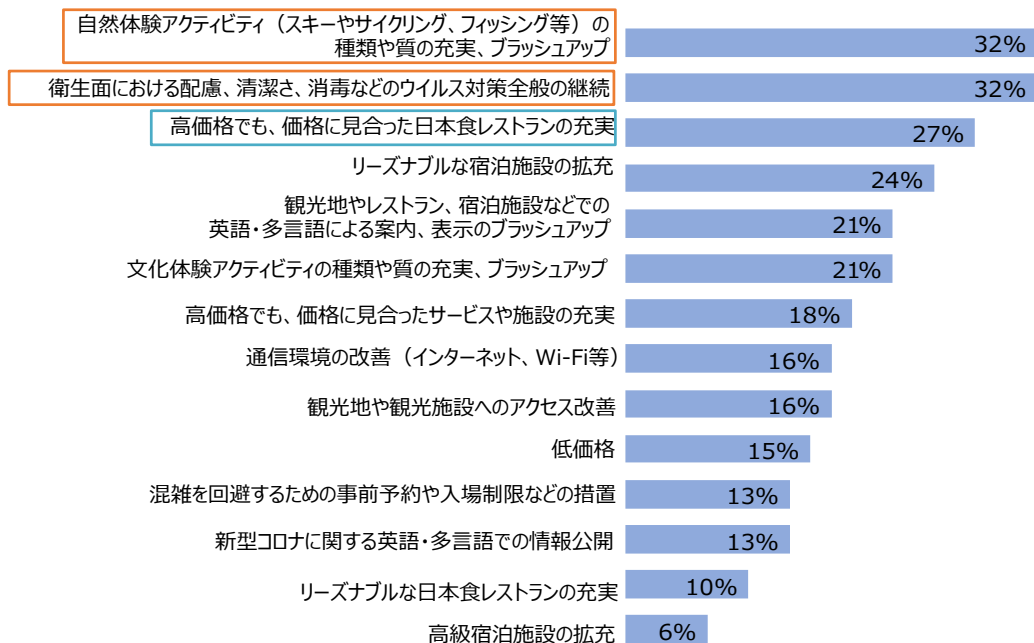
Q. 新型コロナウィルスの流行が終息した後、もしも観光目的で日本の四国（例：香川、直島、愛媛、徳島、高知）に旅行する場合にあなたが期待したいことを最大3つまでお選びください。（回答は3つまで）

■ 四国訪問希望者

アジア全体 (n=278)



欧米豪全体 (n=62)



(参考) 新型コロナ終息後の訪日旅行全般に期待したいこと

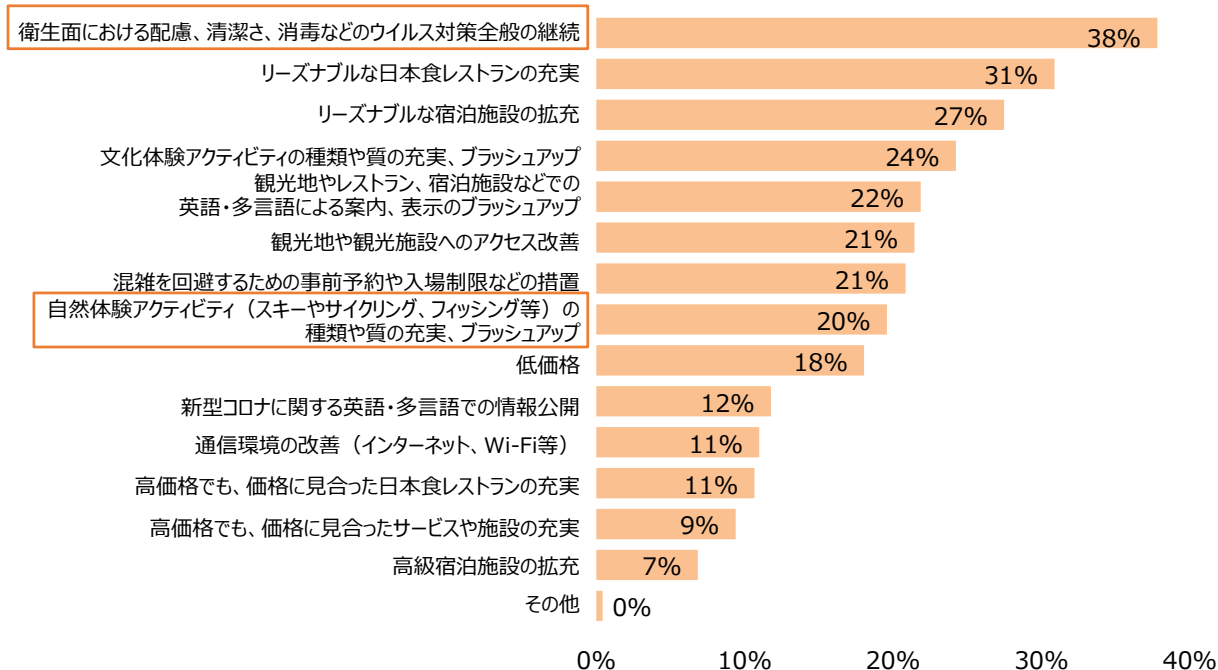
訪日旅行希望者

- 新型コロナ終息後の訪日旅行全般に期待したいことは、四国旅行と同様にアジア・欧米豪ともに「衛生面における配慮、清潔さ、消毒などのウイルス対策全般の継続」が最多となっている。
- また、「文化体験アクティビティの種類や質の充実、ブラッシュアップ」に対する回答も多い。

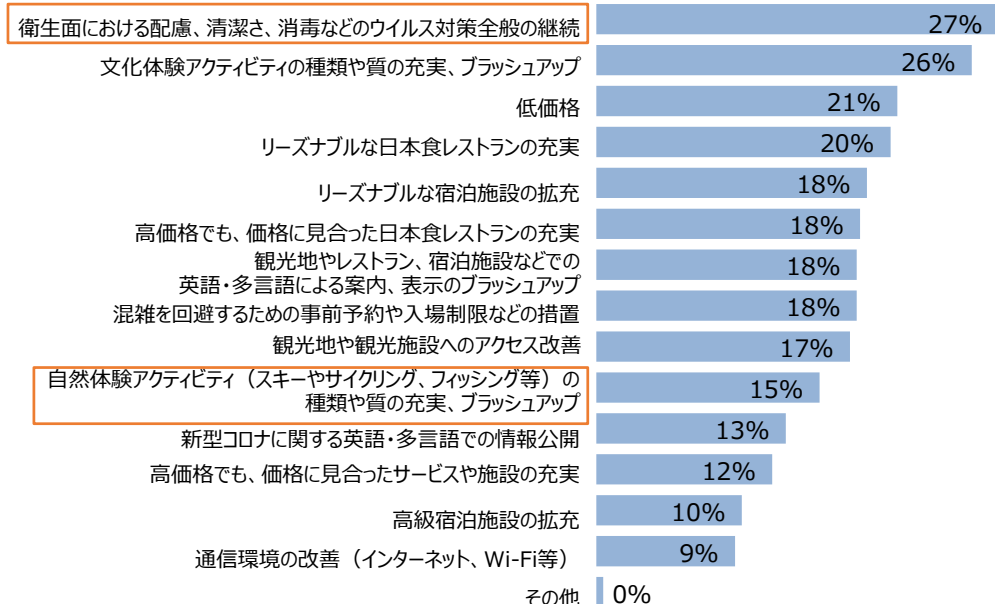
Q.新型コロナウィルスの流行が終息した後、もしも観光目的で訪日旅行する場合に、あなたが訪日旅行全般に期待したいことを最大3つまでお選びください。（回答は3つまで）

■ 訪日旅行希望者

アジア全体 (n=2,151)



欧米豪全体 (n=433)



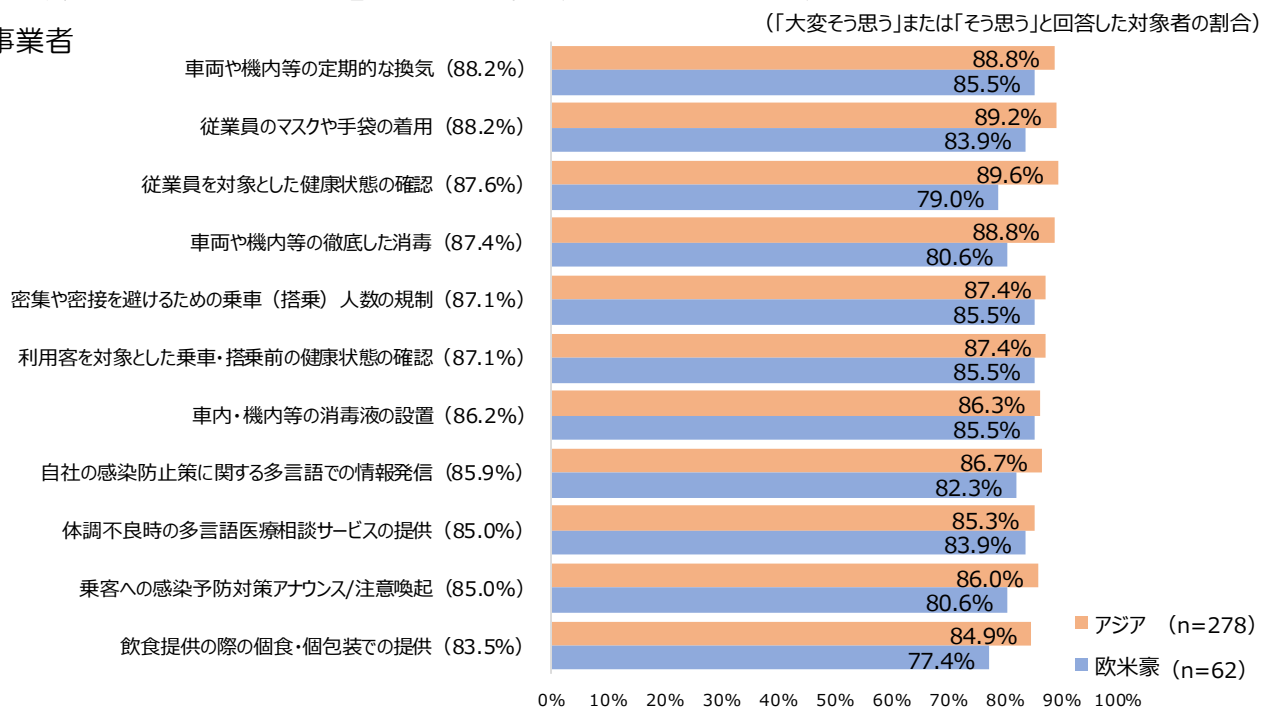
3-7. 交通事業者および宿泊事業者がとるべき新型コロナ対策

四国訪問希望者

- 交通事業者が取るべき対策について聞いたところ、全般的に選択率が高く、「大変そう思う」と「そう思う」を合わせると、アジア居住者ではすべての項目が8割超であり、欧米豪でも8割前後である。
- 宿泊事業者が取るべき対策についても、全般的に選択率が高く、「大変そう思う」と「そう思う」を合わせると、アジア居住者では11項目が9割近く、欧米豪でも8割前後である。

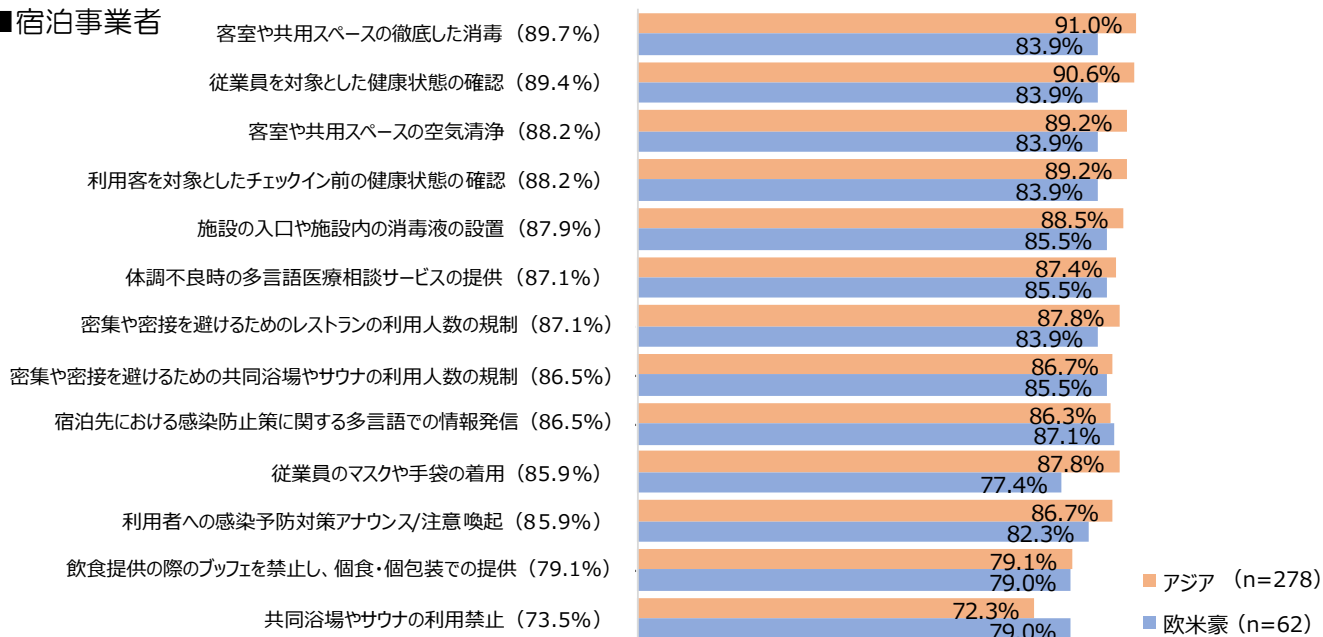
Q. あなたがもし観光目的で訪日旅行をする場合、安心して交通機関を利用するために交通事業者がとるべき新型コロナウィルス対策としてあてはまるものを選んでください。（回答はそれぞれひとつ）

■交通事業者



Q. あなたがもし観光目的で訪日旅行をする場合、安心して宿泊施設を利用するために宿泊事業者がとるべき新型コロナウィルス対策としてあてはまるものを選んでください。（回答はそれぞれひとつ）

■宿泊事業者

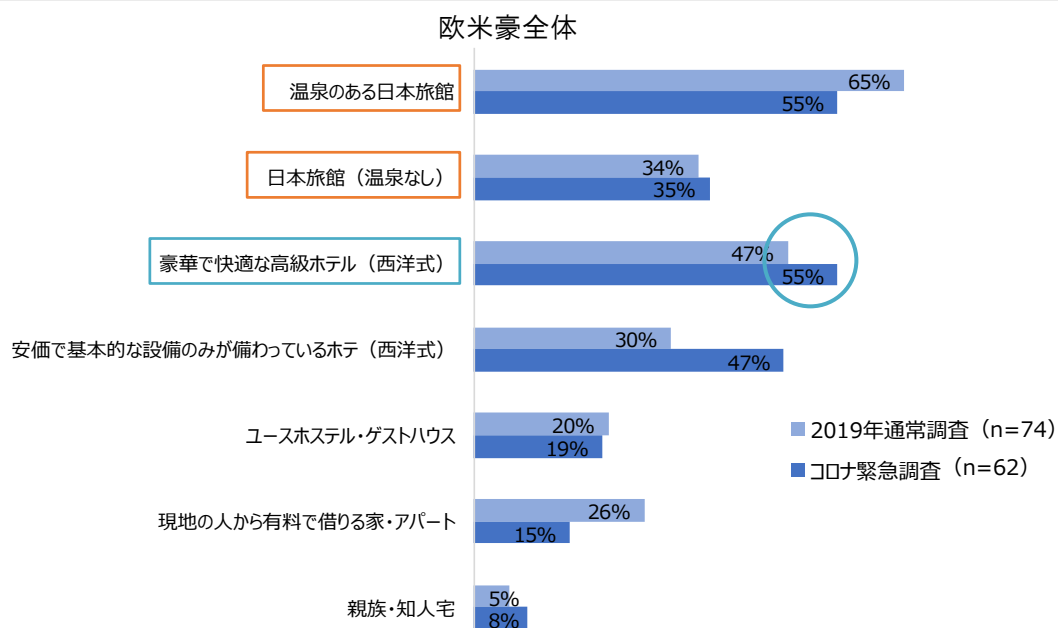
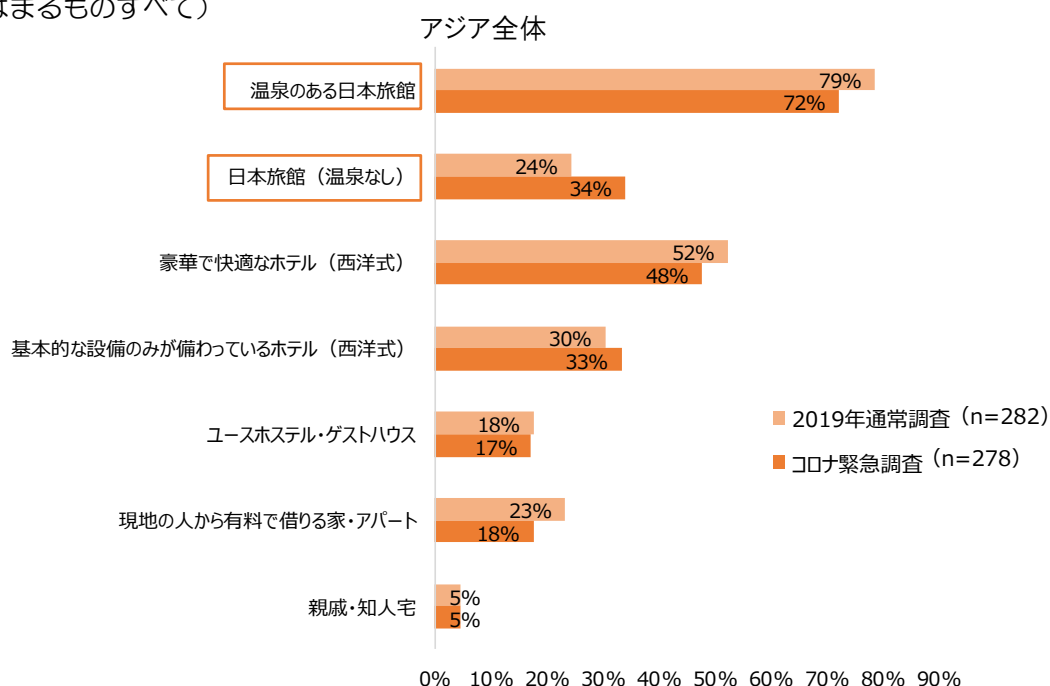


3-8. 新型コロナ終息後の訪日旅行で希望する宿泊施設

四国訪問希望者

- 新型コロナ終息後の訪日旅行で希望する宿泊施設を、通常調査時の結果と比較した。
- 通常調査において「温泉のある日本旅館」はアジア・欧米豪ともに最も人気があるものの、本調査ではいずれも選択率が通常調査よりも下がっている。一方で、「日本旅館（温泉なし）」はアジア・欧米豪ともに選択率が上がっていることを踏まえると、日本旅館自体には宿泊したいものの、共用で利用する温泉やサウナ等での感染に対する不安があるものと推察される。
- 欧米豪では、「豪華で快適な高級ホテル（西洋式）」を希望する割合が、通常調査よりも高くなっている。

Q. あなたが新型コロナ終息後に観光目的で訪日するとして、次はどのような宿泊施設に泊まりたいですか。
（回答はあてはまるものすべて）



©Development Bank of Japan Inc.2020

本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：日本政策投資銀行と明記して下さい。

本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。

株式会社日本政策投資銀行 四国支店 企画調査課

Tel : 087-861-6676

